

### 第35回法人会全国大会鳥取大会の報告

平成30年10月11日（木）第35回法人会全国大会鳥取大会が鳥取市のとりぎん文化会館で開催され、約1,600名が参加しました。

第1部では「大山どりの奇跡～35歳、どん底からの挑戦～」と題して株式会社大山どり 代表取締役 島原道範氏の記念講演がありました。同氏は、飼料会社に勤務していた若干35歳の時、取引先であるブロイラー生産業者が経営危機に陥ったため請われて再建のため社長に就任し、苦難を乗り越えて事業を拡大し大山どりを生産量で日本のトップブランドに押し上げた足跡についてお話をいただきました。

第2部の大会式典では、一般社団法人鳥取県法人会連合会の藤本英興会長の開会の辞、主催者を代表して小林栄三全法連会長の挨拶に続き、藤井健志国税庁長官、平井伸治鳥取県知事ほか来賓の祝辞、会員増強表彰等の表彰式に続いて平成31年度税制改正に関する提言の要旨が発表されました。

提言要旨は、プライマリーバランス黒字化目標の達成時期を2025年度に大幅延長したが、団塊の世代が後期高齢者に入り始める2022年までに黒字化を達成しておくことが極めて重要となる。

社会保障制度においては、医療と介護の給付急増が見込まれるなか、これを「重点化・効率化」によって可能な限り抑制するとともに適正な「負担」を確保する必要があること。中小企業の技術革新など活性化に資する税制措置の拡充を図ること。中小企業にとって円滑な事業承継に資するため事業用資産を一般資産と切り離した本格的な事業承継税制を創設する必要があること等が柱となっています。

続いて、昨年の中青年の集いにおける発表で最優秀賞を受賞した直方法人会青年部会による租税教育活動の報告があり、最後は「平成31年度税制改正に関する提言」の実現を強く求める大会宣言で締めくくられました。

第3部の懇親会では、郷土料理や美味しい地酒が振舞われ、大いに舌鼓を打ちました。和やかな雰囲気の中、会員交流、情報交換 が盛んに行われ、来年の三重大会での再会を約して散会しました。

以上